

「グローバル安全学トップリーダー養成プログラム 活動報告書」

「活動名称」

報告者 昆 周作(理学研究科地学専攻 M2)

1. カテゴリー

学生自主活動

2. 活動日時、場所

2013年8月28日(水) 6:30-17:00

場所:山口県山口市国道9号線阿武川周辺

3. 企画者(複数可、代表者には◎を記載)

◎昆 周作

4. 参加者など

昆 周作 杉安 和也 山田 昌樹

5. 活動目的

平成25年山口島根豪雨で発生した洪水により両県は農業やインフラなどで大きな損害を受けた。安全学を軸にした東北大学リーディングプログラムを受けている私たち学生にとって、このような自然災害は胸が痛む出来事であり、このような自然災害から人命、財産を守るために我々学生一同、防災科学の発展をこれまで以上に注ぐ思いで一致している。とりわけ私の研究は堆積物の古流向解析であり、今回の洪水堆積物を現地で視察、採取、そしてこれらの試料の測定は、この被災地の防災学上基礎的な結果を残すことになり、極めて重要である。よって山口県山口市の阿武川沿いで洪水被害の視察を行い、洪水堆積物の採取を行った。採取した堆積物は段階的に測定を行い、学会発表や学術誌に投稿し公開していく予定である。

6. 活動概要

始めに被災地の被害状況を確認した。洪水を起こした阿武川沿いのリンゴ園と水田の浸水や流失などの被害を受けているのを確認した。また、阿武川周辺を走る鉄道の線路と周辺の家々が東日本大震災を思い出すような悲惨な状態に破壊されているのを視察した。次に洪水の被害にあった場所に堆積している箇所をスコップで50センチ以上の穴を掘り、堆積層状を観察した。その結果、上層は粒度が荒く、下層は粒度が細粒であったが、このことは初めになだらかな流体が被災地を襲い、その後に激流が襲ったことを示唆しているが、このことの実事確認は実験室で粒度分析を行い、詳しいデータを求める必要がある。また、洪水堆

積物は流動方向を保存している可能性があるため、地磁気異方性の手法を用いて測定するため、掘った穴から定方位を行い試料の採取を行った。

7. 特記事項・添付資料など



被災地にあるリンゴ園の様子。洪水の流動方向に樹木が傾いているのが確認できる。



穴を掘り、洪水堆積物を観察した例。上層に平行ラミナが確認でき、下の層に行くにしたがって粒度が荒くなっていくのが確認できた。